

2023年3月28日

## 2023年度(令和5年度) 事業計画書

公益社団法人日本フィランソロピー協会

## 「2023 年度 事業計画書」 目次

	頁
「2019 年度から 2023 年度までの基本方針」	1
「2023 年度の事業計画」	3
＜事業部門＞	
I 社会貢献啓発事業(公益目的事業 1 )	
1 機関誌の頒布事業	4
2 インターネットを利用した情報提供事業	4
II 社会貢献促進事業(公益目的事業 2)	
1 研修事業	4
(1) 定例セミナー	4
(2) Stone Soup Club	4
2 顕彰事業(企業フィランソロピー大賞)	4
3 フィランソロピー・バンク事業(個人寄付普及事業)	5
(1) 企業の従業員および顧客参画寄付事業	5
(2) 個人の寄付推進事業	5
4 フィランソロピー社会基盤整備事業	5
(1) 個別企業社会貢献推進事業	5
A 従業員ボランティア支援事業	5
B 助成支援事業	5
C その他の社会貢献活動支援事業	5
D 物品寄贈「あげます・もらいます」事業	5
(2) 被災地復興支援事業	6
III 共生社会創造事業(公益目的事業 3)	
1 共生社会づくり推進事業	6
2 次世代育成事業	6
＜法人管理部門＞	
IV 会員 他	7

## 2019年度から2023年度までの基本方針

### 1. 民主主義の原点としての個人の社会参加・社会貢献の具現化に向けて

2014年度から2018年度までの5ヶ年は、当協会のミッションである、民主主義の健全育成の実現を目指し、(1)企業フィランソロピーにおいては、主にステークホルダーの社会参加を推進し、(2)個人向けには、主に次世代育成を軸に、寄付・募金教育を中心としたシティズンシップ教育の実践を通して、社会貢献の具現化に取り組んでまいりました。

特に近年、企業フィランソロピーにおけるステークホルダー、とりわけ従業員のボランティア参加への意識や関心が高まり、そのサポートは当協会の大きな事業の柱となっています。また企業自身も、この従業員のボランティア参加を人材育成の一環として位置づけるようになり、未来が予測困難で不確実性の高い時代において、「自ら考え、異文化と出会い、未来のあるべき姿を描き、それに向かって挑戦できる」人材の育成強化に活用する企業も少しずつ増えています。

このような時代の変化を、当協会は、多様性を重要な価値とするフィランソロピーの本質的理解を深めるための好機とし、それを広めていくためにも、今後の事業展開に向け、責任の大きさを実感しています。

2019年度から2023年度の5ヶ年計画においては、新たな戦略的な事業として、2018年度から開始しました「誕生日寄付」事業を本格的に進めていく方針です。全世代の個人をはじめとし、法人（創立記念日など）の参加についても視野に入れ、様々な工夫と企画を凝らして、2023年度までに3万人の参加をめざしていく計画です。

### 2. SDGs時代における企業フィランソロピーの位置づけの明確化と推進

近年、経済界におけるSDGsへの関心の高まりは、世界的なESG投資への動きに大きく影響を受けている背景がありますが、SDGsが投資ポートフォリオの単なる一手段として終わることがないように、SDGsが目指す社会のあるべき姿を見据え、その実現に向け、企業やNPOなど各セクター間のコーディネーターとしての役割を通じ、それぞれの事情を考慮しつつも、それを超えて協働できるための支援をしていくことが、当協会の重要な役割と考えています。

多くの人は、世界規模における自然環境の悪化、政治のナショナリズム化、社会環境の劣化などが相互作用し、社会全体が負のスパイラルに向かっていることを、課題として認識しています。その課題解決のためには、企業組織の中であって、組織の一員として従来のあり方の延長線上で行動するだけでは、部分的な改善にとどまり、真に課題解決し、新たな価値を創り出すことは不可能です。本来、企業は企業市民としての役割を果たすことを求められているのであり、本業を含めて、社会全体の課題解決に向けて覚悟ある取り組みをすることで、企業の社会における存在意義を自他ともに認められるもの、と言えます。当協会は、今こそ、企業市民の意味を、企業含め社会全体に発信し、伝え続けていく使命があると考えています。

その為の具体的な取り組みとして、企業の従業員はじめ、ステークホルダーが困難な課題の現実を見る体験をはじめとした社会貢献活動の拡充に努め、かつ、それを制度や仕組みづくりにつなげるために、CSR以外の部署や経営層への理解浸透を進める工夫をしてまいります。

### 3. 次世代育成を中核課題に据えた、セクターおよび世代連携のフィランソロピーを推進

少子高齢化の中で、人生 100 年の時代を迎え、従来の単純な世代交代は機能しなくなってきており、世代を超えた、世代連携の仕組みが必要になってきました。高齢者層と青少年層の協働を視野に入れた活動を進め、世代間の軋轢ではなく、世代を超えた人間としての共感を基本に据えた活動で、次世代への健全なバトンを渡す仕掛けづくりをします。

今、困難な状況にある子どもたちを支援するとともに、彼らが将来、社会の健全な市民として社会参加・社会貢献をする人材に成長できるように、さまざまな境遇の子どもたちに寄り添う事業を、企業のステークホルダー等とともに進めます。そうすることで、世代が連携しながら共に支え合う社会づくりを体験することをめざします。具体的には、企業の従業員およびOBなど、企業人としての経験を活かして、次世代育成への関与を強めながら、これまでの「子どもの貧・困に関わる伴走支援事業」および、中高生による「シティズンシップ教育事業」を広めていきます。

次世代を担う青少年の健全育成を社会全体の課題とし、個人寄付の広がり为核心に、企業のステークホルダーの参画を進める企業への働きかけを通して、世代を継承しつつ一人ひとりが生き生きと暮らせる社会創りをめざしてまいります。

## 【2023年度の事業計画】

### 【基本方針】

2022年2月にロシアのウクライナ侵攻が始まり、我々は長引くコロナ禍に加えて、ますます不穏な社会情勢の中で生きることとなりました。VUCAの時代と言われてきましたが、それを幾重にも重層化するような出来事を前に、思考停止に陥ったり、周囲の狭い範囲の中ですべてを捉えるという視野狭窄に陥り、そのパターンが連鎖するという様相を呈しています。SNS普及で世界とつながっている半面、自らの関心事のみに終始し、閉じた世界に生きるという現実も目の当たりにしています。そうした中で、国内外において民主主義が脅かされていることを実感しています。

当協会は、健全な民主主義社会の実現をミッションに掲げ、一人ひとりのリアルな社会参加がその原点である、という考えのもとに企業人をはじめ個人の様々な社会参加・社会貢献への道筋を作ってきました。今後は、それをさらに成長・発展させると共に、深刻化・複雑化する課題の本質にも目を向け、その解決のために必要な情報提供・議論の場の提供など、中間支援団体としての矜持を持つべきであると自らに言い聞かせています。それぞれのプレイヤー間をつなぐだけではなく、見えにくい問題の本質に迫り、解決への方策を共に探り歩む伴走も果たしていきたいと考えています。そして、希望を持つことができる未来への礎を確かなものにすべく、次世代を担う若者への訴求に積極的に取り組んでいく所存です。

2023年度は、2019年度にスタートした5年間の基本方針を次の5か年につなげる節目の一年として、①個人の社会貢献の促進 ②SDGs時代の企業フィランソロピーの成長・発展への寄与 ③次世代育成 を有機的につなげる事業展開で、各セクターや異世代連携をしつつ、一人ひとりが大切にされ、かつ、かけがえのない社会の一員として参加・貢献できるフィランソロピー社会実現に向けて尽力する所存です。

#### ① 企業フィランソロピーにおける個人の社会参加促進の拡充

人的資本経営に本格的に舵を切ろうとする企業が増えている中、従業員の人材育成を目指すべく、ボランティアなどへの参画に積極的に取り組む動きが加速しています。今後は、単発のボランティアへの参加だけではなく、NPOの組織基盤強化や、地域社会の課題解決に向けての企画開発など、より深く継続的に関与するプロボノ企画などへも注力し、幅広い層の社員参加を牽引してまいります。人材育成のアプローチの幅を広げるために、各企業等の担当部署ときめ細かなコミュニケーションをはかりながら、企業フィランソロピー推進のサポートに注力してまいります。

#### ② 社会貢献事業の線的支援から面的拡充に向けて

企業の経営資源として核となる従業員の資質・意志や要望を活かしつつ、複数企業間の連携はじめ、自治体などとの連携を強化し、住民や自治体職員、学校教員や学生・生徒などが地域課題に向かうための機会の提供を積極的にすすめてまいります。また、それを広く共有し、進化させるためのプラットフォームとしての役割を担うためのテーマ・地域・プレイヤーなどを整理しつつコンテンツを拡充をめざします。そして、各地域のコミュニティキャピタルとしての価値を高めるために寄与してまいります。さらに、民主主義社会の基盤づくりに資するためにも、それを支える個人寄付推進を積極的に進め、個人の寄付文化醸成をめざします。

#### ③ 自然環境の保全、社会環境の改善・変革により、次の時代を担う青少年が、より希望と夢を持つことができるように確かなバトンを渡すことが、今を生きるものとしての大事な責任です。企業の従業員参画を取り込みながら、これまでの次世代育成事業遂行の経験の中で培ってきたノウハウやネットワークを活かして事業を組み立てていきたいと考えています。青少年のボランティアや募金・寄付活動をはじめとする社会貢献活動を、単なる社会参加・社会体験的なものから、地域社会の課題解決や新たな価値創造に資する未来志向のものとするために、企業人ボランティアの参画を得ながら、次世代を担う人材育成を強化していきます。

## <事業部門>

### I. 社会貢献啓発事業（公益目的事業1）

『市民、団体、企業のフィランソロピー（社会貢献）活動を啓発、啓蒙するとともにボランティア活動、公益活動への関心を深め、より良い社会の醸成に寄与する事業』

#### 1. 機関誌の頒布事業

機関誌『フィランソロピー』の発行（年6回発行）

当協会の活動報告とともに、複雑化・多様化する社会の課題を抽出し、多角的な視点から捉えて、よき社会について考える特集を企画・編集する。同内容を、日経テレコンに掲載する。

#### 2. インターネットを利用した情報提供事業

(1) メールマガジン（毎月1日・15日配信 配信数約6,000件）

(2) 当協会WEBサイトリニューアル

閲覧する側の利便性を考えたWEBサイト化を考えて、閲覧者毎に、導線を考えたページ構成にリニューアルする。

(3) SNS（随時配信）

当協会の活動をより広く、よりタイムリーに発信するために、動画配信を含めて、ホームページ、Facebook、TwitterなどSNSによる情報提供を強化する。

(4) データベース構築

企業の社会貢献活動やNPOの情報等を収集して整理し、データベースとして利用可能とする。なかでも広く周知して活用されるべき情報についてWEBサイトで公開する。

### II. 社会貢献促進事業（公益目的事業2）

『主に企業、団体の社会貢献担当者、NPO・NGO職員を対象とし、社会貢献・社会的責任に対する考え方、組織運営に対する能力開発、更には具体的な活動を支援する事業』

#### 1. 研修事業

(1) 定例セミナー

- ・年間11回開催。4-6月は基礎講座として5回開催
- ・企業のCSR担当者等を対象としたセミナーで、CSR経営、社会貢献や社会的責任等に関するテーマで開催。講演後のグループディスカッションを通して、参加者の啓発、知見の深化と共に、参加者間のネットワーク作りをめざす。対面開催とオンライン開催を組み合わせることで首都圏だけでなく、全国各地からの参加を促進し、交流に繋げる。

(2) Stone Soup Club

企業のCSR担当者を対象とした、少人数で共に学び、考え、議論し、協働型の活動を企画・実施するフォーラム。

#### 2. 顕彰事業

(1) 第21回企業フィランソロピー大賞

社会問題に真摯に向き合い、自社の経営資源を活かして、経営理念に沿った社会貢献活動や価値創造を実践する企業を顕彰することで、企業CSR経営の普及・啓発につなげる。

21回目となる今回は、今後益々必要となる、多様な形での社会貢献を視野に入れ、新たな輪を拓ける。

### 3. フィランソロピーバンク事業（個人寄付普及事業）

個人の寄付文化醸成を図るため、企業などがその従業員はじめステークホルダーと、共に行う寄付、および一般個人の寄付の受け皿となる。寄付先 NPO および個人選定に関する調査、寄付金および奨学金配布、寄付後の活動報告などフォローアップを行う。

#### （1）企業の従業員および顧客参画寄付事業

- ① NPO 向け 株式会社ファンケル他全 8 社を予定
- ② 個人向け  
東京海上日動あんしん生命保険株式会社  
・奨学金制度(対象約 200 名)及び幼児教育支援制度

#### （2）個人の寄付推進事業

- ① 誕生日寄付事業
  - ・寄付のプラットフォーム（専用ウェブサイト）を活用し、個人寄付の実践を促進する。
  - ・集まった寄付金は、「子どもたちの今を支え、未来に投資する」をコンセプトに審査委員会にて審議・決定した団体へ寄贈する。
  - ・個人の寄付文化醸成の効果的な実施を図るため、SNS や企業との連携による通販サイトへの掲載等、新たな層への広報を推進する。また、Jリーグクラブ・カタレ富山との協働による地域版も継続。適宜、寄付先団体の活動状況等を寄付者および一般に広く情報発信する。目標額：700 万円。
- ② 2023 年トルコ・シリア地震募金  
2023 年 2 月 6 日に発生したトルコ・シリア地震について 3 月 6 日(月)～31 日(金)の期間、募金活動を実施。専門家委員会での議論を経て、活動団体へ寄付する。

### 4. フィランソロピー社会基盤整備事業

#### （1）個別企業社会貢献推進事業

個別企業に対し、社会貢献活動に関する企画提案・実行協力を行う。

##### A. 従業員ボランティア支援事業

- ① 「ボランティアウェブ」事業 予定企業 19 社  
企業の従業員の社会参加促進のため、ボランティアウェブを通じて従業員と団体のマッチング、個別にプログラム企画開発を行い、開催までのサポート、開催後の NPO/企業間のコミュニケーションサポートを実施する。昨年に比べ、6 企業増。  
※「ボランティアウェブ」とは、参加企業従業員に対し年間を通じて様々なボランティアの機会を提供するマッチングサイトです
- ② 個別企業向け従業員ボランティア支援事業 予定企業 2 社  
ボランティアプログラムの企画運営等を個別に支援する。

##### B. 助成支援事業

企業の助成事業を事務局として支援する。昨年から 1 社増え 4 社予定

##### C. その他の社会貢献活動支援事業

##### D. 物品寄贈「あげます・もらいます」事業

企業から物品などの提供を受け、必要とする NPO とマッチングをする事業。

## (2) 被災地復興支援事業

### 1. チャレンジド・アスリート奨励金

サントリーグループの東日本大震災復興支援「サントリー東北サンさんプロジェクト」の一環として実施。2020年で終了予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大のため奨励金の活用期間を2023年末までと再延長した。それによる受給団体・個人へのフォローを行う。

### 2. みらいチャレンジプログラム

サントリーグループの東日本大震災復興支援「サントリー東北サンさんプロジェクト」の一環として、2021年2月より新規スタート。岩手県、宮城県、福島県の地域の再興を目指して新たな活動を立ち上げようという個人・団体の活動を奨励金という形で支援する。第3期を2023年2月1日より公募開始。給付総額3,000万円の予定。第1期～第3期の活動報告会を各県で開催し、給付先団体のネットワークを広げる。

## Ⅲ. 共生社会創造事業（公益目的事業3）

『より良い社会を形成するために全ての人が社会参加できる機会を提供し、精神的、経済的に自立した生活の実現を支援する事業』

### 1. 共生社会づくり推進事業

#### (1) フィランソロピー名刺事業

フィランソロピー普及と障がい者の経済的自立のための名刺普及事業。

- ・名刺の収益の一部を障がい者アーティストの収入とする。
- ・印刷作業を「新宿区勤労者・仕事支援センター」に委託することにより、障がい者の就労機会づくりに貢献。300件を目標とする。

### 2. 次世代育成事業

持続可能で民主的な社会の創り手の育成を念頭に、SDGs教育に関心が高まる中、従来の寄付教育など社会貢献教育の次のステージの在り方を探り、来年度以降にも継続できる企画開発に向けて企画実施する。

#### (1) チャリティー・ムービープロジェクト

中高生による動画制作とWEB上やリアルな場での募金活動を行い、社会課題に取り組んでいる団体への寄付を行う。実施にあたり企業の従業員等が中高生を伴走し多世代による社会協働モデルを実践する。

#### (2) 久里浜少年院 社会貢献活動 「花育」

協力：有限会社権名洋ラン園

内容：4年目に入る。在院生が育てた蘭の花を障がい者支援施設等に贈呈予定。

## <法人管理部門>

### IV. 会員 他

会員の推移は以下の通り。経済環境は厳しい状況にあるものの、「新しい公共」が謳われる中、企業として社会全体の健全な発展に寄与することの必要性、重要性の認識は高まりつつある。当協会がめざす理念を積極的にアピールし、フィランソロピー活動へのきめ細かな支援を通じ、会員数の増加に努める。個人会員に関しては、まず誕生日寄付などへの参画を通じ、当協会の活動への理解を深めることをめざす。

#### (1) 会員

#### 会員数の推移

(実績値は年度末値)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 見込	2023年度 目標
① 法人正会員	26	25	20	18	19	20
② 法人賛助会員	101	102	105	106	114	120
法人会員合計	127	127	125	124	133	140
③ 個人賛助会員	94	84	79	79	79	90

#### (2) 研修

中間支援団体として、社会課題のリアルを学ぶため、NPOの現状をより深く知る機会を設ける

#### (3) Pマークの取得

規程の追補版策定や教育等、審査対象項目をクリアし審査に臨む。

#### (4) 「2022年度版 ANNUAL REPORT」発行

「2022年度版 ANNUAL REPORT」を作成し、会員企業等に送付。

以上